

## 注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

### 【タイトル】

私が、先生を救う。

### 【作者名】

原初の白

### 【あらすじ】

「過去の悲しみも憎しみも、全部私が持つて行きますから。  
だから皆さんだけは、笑っていてください……」

そう言って先生が私の前から居なくなつてから二年。

“不滅の炎（フォイアルディア）”の抜劍者になつた私は、先生の居場所を突き止めて、剣から引きはがそつと戦い、……殺された。

けれど私は、なぜかマルティーニ家の自分の部屋で目を覚まして  
……。

# 悲劇の終わりと、新たな希望 ↗ why am I here? ↘

……こえが、……聞こえる。

「…………さま……お嬢さまー。」

その声は私にとつて、もう会つこともないはずの人のもの。

「お嬢さまー朝食の時間に遅れてしまひますよー。」

なのに意識がはつきついていくにつれ、その声もはつきつと聞こえるようになつていいく。

……どうして?

サローネがここに、名もなき島にいるはずがないのに。

……いいえ、そんなことより。

そもそも、私が生きていること自体がおかしいわ。

……私は確かに、3年前に全てを一人で背負つていなくなつた先生を見つけだして、剣を折ろうとして殺されたのだから。

第0話 悲劇の終わりと、新たな希望 ↗ why am I here ↘

「…………既に席にいらっしゃいます。

お嬢さまもお急ぎ下さりませ」

「え、……ええ。わかつたわ、ばあや」

私が起き上がると、サローネはそう言い残して部屋をでていく。

返事はしたもの……訳が分からぬ。

何で私はマルティニーのお屋敷の自分の部屋にいるの?

……一瞬、死の淵にいる私が走馬灯でも見ていくのかしら、とも思つたけれど、

それにしては意識や感覚がはつきりしすぎている。

多分、これは現実。

じゃあ今までの出来事が全部夢？……そんな訳ない。  
あの島での日々……カイル達一家や島の住人たちアーリーラお姉さまやマルルウたち、そして先生  
との思い出がただの夢だったなんて思えるわけがない。

……なら、どうして？

疑問は解けないけれど、これが夢や走馬灯でないなら、そろそろ食堂に行かないとサローネに叱られてしまうわ。

とりあえず髪だけでも整えようと鏡台に向つと、そこに映った私の顔は……

「…………え？」

最後に鏡を見た……私の記憶では2日前に見たときと比べて、5才分は若かった。

# 一話 悲劇の終わりと、新たな希望～Why am I here?～(2)

食堂に入ると、そこには確かに全員……お兄様とアリーゼとナップ、それから部屋の隅に控えているサローネとメイドたちがいた。

お父様の席は空いているけれど、それはいつもの事。

それよりも大事なのは、お兄様たちが私の記憶より少し幼い顔立ちをしていること。

鏡台で自分の顔を見たときからもしかして、とは思っていたのだけれど……私は先生に殺された時より、数年……少なくとも5年以上前の過去に戻つてしまつたようだ。

島での出来事もこの状況も現実なのだから、結局はこの結論に辿り着くしかないわけだけど……そうなると、また別の疑問が浮かんでくる。

一体誰が、どうやってこんなことをしたの？

あの島の町に、時間を遡れるような力を持つた人なんていなかつたはず。

不滅の炎(フォイアルディア)にもそんな能力は……そうだ、フォイアルディアは今も私と共にいてくれているのかしら？

今すぐにでも確認したいけれど、もし本当に剣がいた場合呼びかけると少なからず魔力が漏れるから、人気のない場所を探さないと……

「ねーちゃん、早く座つてくれよー？」

……い、いけない。考え事に集中しそぎて今の状況を忘れていたわ。

ナップに急かされながら席に着き、食事を始める段になつて、マルティー二家での食事の作法が全部は思い出せない事に気が付く。

サローネは作法にかなり厳しいのよね……仕方ないわ。ちょっと拳動不審にとられるかもしけないけど、忘れちゃつた部分はアリーゼを見て真似しましょう。

……そういえば、過去に戻ってきたのは私だけなのかしら？

私を過去に連れてきてくれた人にも、時間を遡るなんていう常識はずれな事が何度も出来るとは思えないけれど、万が一ということがあるかもしれない。

一人一人、それとなく確認してみるのも忘れないようにしないといけないわね。

朝食を食べ終えたら、すぐ自分の部屋に戻る。

……今が先生と会う数年前だとわかつてから、思考が『それ』に行き着かないよう必死で思考を逸らし続けていたけれど、もう限界だった。

「…………っくう…………っ」

ここなら一人で、誰にも見られずに涙を流せる。

やらなきやいけない事、考えなきやいけない事……まだたくさんあるけれど、今は……

「…………先生…………せんせえ…………っ！」

今はただ、思いつきり泣いて感情を吐き出していく。

……私はまた、先生に会えるんだから！